

第2学年 図画工作科学習指導案

ろ組 男子 17 名 女子 17 名 計 34 名

指 導 者 奥 俊 明

1 題 材 かさをひらくと

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材は、ビニール傘の形状や透過性を生かして、飾り付ける模様を工夫し、開くと楽しくなる傘をつくる工作の題材である。

この期の子どもたちは、造形活動自体を楽しむ傾向にあり、興味のある対象に体全体で働きかけ、周りの人・もの・ことと一体となって活動する。また、具体的な活動を通して思考し、結果にこだわらずに様々な方法を試し、思考と表現を一体的に行う。そして、気に入った対象をじっと見たり材料の感触を楽しんだりすることで、体全体を働かせながら形や色などに気付き、対象のよさや面白さを味わいながら、自分の表したいことに合わせて表現するようになる。

そこで、本題材では、飾り付ける模様の形や色、大きさ、場所、光に写る様子といった造形的な視点で、表現を比較したり、自分のイメージと関係付けたりしながら、傘を飾り付けていく活動を通して、開くとわくわくする傘を表現する面白さに気付き、製作への意欲を高めていくことをねらいとしている。また、傘を飾り付ける際、模様の形や色、大きさ、場所、光に写る様子といった造形的な視点で捉え、発想・構想したり、自他の作品を鑑賞したりしてつくりだす力や感じ取る力を伸ばしていく。さらに、イメージに合わせてはさみ等の用具を適切に扱う技能を高めることをねらいとしている。

このような学習は、2年生の題材「まどをあけたら」で、カッターナイフを用いて窓をつくり、開くと絵が現れたり変わったりする建物をつくり飾り付ける工作の題材へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本題材で扱うビニール傘は、身近にあるもので、子どもにとって馴染みのある材料となる。また、ドーム型の形状をしており、下から見上げたり上から全体を俯瞰して見たりすることができ、多様な鑑賞方法が可能である。さらに、傘の曲面に飾り付けをしたり、ビニールの透過性を生かし、光を通して生まれる材料の特徴に気付いたりすることができる。このように、ビニール傘を材料として活用することで、閉じたり開いたり、回したり光にかざしたりしながら表現する楽しさを味わい、意欲的に取り組む活動を展開していくことができると考える。

そこで、本題材の展開にあたっては、傘を飾り付けることへの思いがつながり、高まるようにするために、開くとわくわくする傘をつくることへの思いや表現上の課題を具現化する題材のめあてや、活動のめあてを工夫することが大切である。また、造形的な視点と自分の思いやイメージとを関係付けながら、表現方法を多様に見いだすことができるようにするために、自他の作品を基に中間鑑賞をしたり活動を振り返ったりすることが大切であると考えらる。

具体的には、まず、身近にあるビニール傘の特徴や参考作品についての気付きを交流して、「雨の日でも開くとわくわくする傘をつくってみたいな。」という製作への思いを基に、題材のめあてを設定する。次に、実際に傘を開閉したり光に透かしたりしながら、つくりたい傘のイメージをもたせ、製作中も実際に操作しながら表現できるようにする。その際、製作上の課題を基に活動のめあてを設定し、自分の作品と友達の作品や参考作品を基に中間鑑賞をする場を設定する。そして、模様の形や色、大きさ、場所、光に写る様子といった造形的な視点を見いだしたり、見いだした造形的な視点とイメージとを関係付けながら表現したりできるようにする。さらに、終末の鑑賞においては、これまでに気付いてきた造形的な視点を基に、できた作品を全体で鑑賞し、それぞれの作品のよさを認め合えるようにする。

これらの学習は、創造的にものごとを考えて表現したり、自分や周りのものごとの価値を感じたりしながら、形や色などを通して社会や生活に主体的にかかわり、楽しく豊かな生活を創造する姿につながる。

(3) 子どもの実態（質問紙法、重複回答、主な項のみ記述）

本学級の子どもたちの工作への興味・関心について（※1）は、多くの子どもが、好意的に捉えている。しかし、4名の子どもが、「楽しくない」や「意味がない」を理由に工作への興味・関心が低い。これは、これまでの製作経験の中で、製作することの価値やよさを見いだすことができていないからだと考える。ビニール傘を加工し変化させることへの発想について

実態調査 2年ろ組 34名 （4月中旬実施）	
1	工作への興味・関心について ※1 好き（30名） 好きではない（4名） （好きではない理由） ・楽しくない ・意味がない
2	ビニール傘を加工し変化させることへの発想について ※2 折り紙やモールなどの材料を活用した飾り付け（30名） 絵の具やペンなどの用具を活用した飾り付け（24名）
3	ビニール傘を加工する際の工夫する視点への気付き ※3 ・材料の特性を生かした視点 ・ドーム型の形状を生かした貼り付けや着色の視点 ・傘のイメージ（雨で使用）を基にした視点
4	鑑賞活動について ※4 【友達作品を見ること】 好き（30名） 好きではない（4名） （好きではない理由） ・見ても真似できない ・つくり続けたい 【友達に作品を見せること】 好き（26名） 好きではない（8名） （好きではない理由） ・恥ずかしい ・評価されたくない ・真似されたくない
5	はさみ等の適切な使い方について ※5 （認識が十分ではない点） ・使用中のはさみの管理

（※2）は、材料や用具等の特徴を生かした発想が見られた。これは、これまでの多様な材料や用具を扱う経験を基にした発想ができていることが考えられる。ビニール傘を加工する際の工夫する視点への気付きについて（※3）は、材料の特徴やビニール傘の形状を生かした工夫する視点をもつことができています。しかし、光を生かした視点への気付きは

みられなかった。これは、ビニール傘の特徴の一つである透過性に気付いていないからだと考える。鑑賞活動について（※4）は、多くの子どもが意欲的に取り組むことができています。しかし、友達作品を見ることに関して、「好きではない」と答えた子どもの理由に「見ても真似できない」「つくり続けたい。」が挙げられる。また、自分の作品を見せることに関して、「好きではない」と答えた子どもの理由に、「恥ずかしい」や「評価されたくない」などが挙げられる。これは、発達の特性もあるが、多様な造形的な視点を見だし表現の幅が広がるといった鑑賞活動の価値を十分に感じる事ができていないことが考えられる。はさみ等の適切な使い方について（※5）は、特にはさみを使用する際に、使用中の管理の仕方についての認識が十分ではない点があった。これは、製作に夢中になるあまり、用具の適切な管理への意識が薄れていることが考えられる。

(4) 指導上の留意点

ア 「思いをもつ・見通す」段階では、開くとわくわくする傘をつくることへの思いを高めるために、普段、傘を使用しているときの心情や、飾り付けている傘と飾り付けていない傘を比較して気付いたことを基に、傘を飾り付けるよさや面白さを交流させる。その際、子どもの感想や製作への思いを基にした題材のめあてを設定し、表現への思いをつなぎ、高めていく。また、思いやイメージを豊かにもつことができるようにするために、実際に開閉させたり、持って歩かせたりしながら、多様に試行錯誤できる場を設定する。

イ 「思いを表現する」段階では、多様な造形的な視点を基に、豊かに表現することができるようにするために、子どもの表現上の課題を基にした活動のめあてを設定し、中間鑑賞を行う中で、見いだした模様の形や色、大きさ、場所、光に写る様子といった造形的な視点を基に製作させる。その際、光の透過性を生かした表現の面白さに気付くことができるようにするために、傘を光に当てて影や見え方を鑑賞させたり、傘を見上げさせたりして、気付きを交流させる。また、他者との交流を通して多様な造形的な視点を見いだすことができたことを実感することができるようにするために、製作してきた過程を振り返らせる。

ウ 「思いを味わう」段階では、様々な視点から鑑賞できるようにするために、題材全体を通して、子どもたちが気付いてきた造形的な視点を基に鑑賞させる。また、思いやイメージと造形的な視点を基に考えたことを関係付けて表現を豊かにできたことを実感させるために、製作過程を振り返りながら、感想を交流する。

3 目 標

- (1) ・ 飾り付ける模様の形や色、大きさ、場所、光に写る様子といった造形的な視点を理解することができる。
 ・ はさみを適切に用いながら、材料を組み合わせたり飾り付けをしたりして丁寧で丈夫につくることができる。
- (2) 飾り付ける模様の形や色、大きさ、組合せ、光の様子といった造形的な視点を基に、楽しい傘の様子をイメージしたり、友達の表現のよさに気付き、自分の表現に生かしたりすることができる。
- (3) 身近にあるビニール傘を加工することに興味をもち、ビニール傘の形状や透過性を生かして表現する面白さに気付き、多様な表現方法を試行錯誤しながら進んで表現することができる。

4 指導計画(全4時間)

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	1 身近な傘や参考作品を鑑賞し、雨の日でも楽しくなる傘について話し合う。 傘を飾り付けると雨の日でも楽しくなりそうだな。 	↑	○ ビニール傘を飾り付ける面白さに気付くことができるようにするために、ビニール傘の特徴について話し合ったり、何も飾り付けていないビニール傘と飾り付けた参考作品とを比較して鑑賞し、感想を交流したりする。 ○ 製作への思いを高め、つなげられるようにするとともに、活動内容を焦点化するために、ビニール傘を飾り付ける面白さ(開くと楽しい)を基に、どのような傘をつかっていきたいかを話し合いながら題材のめあてを設定する。 ○ 開くとわくわくする傘への豊かなイメージをもたせるために、実際に開閉したり多様な方向から傘を観察させたりして、ドーム型の形状などビニール傘の特徴と関係付けたイメージをもたせる。 ○ はさみ等の用具を適切に使うことができるようにするために、教師が実際にやって見せ、はさみやのり、化学接着材などの用具の適切な使い方について気付いたことを話し合わせる。また、随時確認できるようにするために、使い方について掲示しておく。
	2 題材のめあてについて話し合う。 ひらくとわくわくする傘をつくらう。 【工夫するポイント】 (授業で中心となる造形的な視点) ○模様の形・色・大きさ・場所 ○光に写る様子		
思いを表現する	3 ひらくとわくわくする傘をつくる。 (1) 傘のイメージをもつ。 どんな傘にしようかな。 雨の日でも空が明るくなるカラフルな傘にしたいな。 	↓	○ 開くとわくわくする傘への豊かなイメージをもたせるために、実際に開閉したり多様な方向から傘を観察させたりして、ドーム型の形状などビニール傘の特徴と関係付けたイメージをもたせる。 ○ はさみ等の用具を適切に使うことができるようにするために、教師が実際にやって見せ、はさみやのり、化学接着材などの用具の適切な使い方について気付いたことを話し合わせる。また、随時確認できるようにするために、使い方について掲示しておく。
	(2) イメージに合わせてつくる。 (3) 友達のよさを生かして、さらに工夫する。 ひらくとわくわくする傘にするためには、どんな工夫ができるかな。 もっと光に写る様子を工夫したいから、いろいろな形のカラーセロハンを貼ったり、絵をかいたりしてみよう。 		
思いを味わう	4 友達と表現を紹介し合い、お互いの工夫や発想のよさを認め合う。 たくさんの材料を使って形や色を工夫すると雨の日でも楽しくなる傘をつくることのできたな。 家でも他の傘を飾り付けてみたいな。 	↓	○ 造形的な視点を基に、自分の思いやイメージをより具体化できるようにするために、参考作品・友達の作品の鑑賞や製作を通して気付いた造形的な視点を発表させ、工夫するポイントとして整理し、表現や鑑賞する際の視点として板書する。 ○ 自分の製作過程や、友達と交流したよさを感じ取ることができるようにするために、工夫するポイントを基に学習活動を振り返らせ、感想をまとめ交流させる。その際、実際に外で傘を差す場を設定し、作りだした喜びを味わうことができるようにする。 また、作品を写真に撮り、図工ノートに写真を張り付け、いつでも振り返ることができるようにする。

5 本 時（3／4）

(1) 目 標

傘の飾り付けの工夫について話し合い、さらに工夫していく活動を通して、模様の形や色、大きさ、場所、光に写る様子といった造形的な視点を基に、飾り付けの工夫の仕方を考え、はさみ等を適切に用いながら自分の思いに合わせて表現することができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、造形的な視点を基にしたより豊かな表現にしていくために、題材のめあてを基に「開くとわくわくする傘になっているかな。」と問い、さらに表現を工夫する必要性に気付かせ、活動のめあてを設定する。

また、イメージと造形的な視点を基に考えた工夫する点を関係付け、イメージを豊かにできたことを実感させるために、「開くとわくわくする傘をつくれたのはなぜだろう。」と問い、友達と鑑賞したことや工夫するポイントを基に製作したことを振り返り、感想を交流させる。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	1 題材のめあてを確認する。 ひらくとわくわくする傘をつくろう。	(分) ↑ 10 ↓	○ 本時の学習や表現の見通しをもつことができるようにするために、題材のめあてや流れを確認する。 ○ 開くとわくわくする傘をつくりだすことへの思いを高めるために、題材のめあてを基に、「開くとわくわくする傘になっているかな。」と問う。そして、実際に傘を開閉させながら、それぞれの成果や課題を交流・整理し、さらに工夫していく必要性に気付かせ、本時の活動のめあてを設定する。
	2 自分の作品を振り返り、成果や課題を交流する。 3 活動のめあてを設定する。 ひらくとわくわくする傘にするためには、どんな工夫ができるかな。 4 製作する。 イメージ 雨の日でも空が明るくなるカラフルな傘にしたいな。		
思いを表現する	自分の作品 ← 観点：飾り付けの工夫 → 友達作品 友達の作品は、折り紙の色を一つ一つ違う色にしているからカラフルで明るくなるな。 外で光に透かしてみると、傘の中が明るくなったり、影に色がついたりするな。 【工夫するポイント】 ○ 模様の形・色・大きさ・場所 ○ 光に写る様子 ひらくとわくわくする傘にするには、模様の形や色、光に写る様子などを工夫するとよい。	30	○ はさみ等の適切な使い方を理解できるようにするために、掲示を基に使い方を確認する。その際、活動中にいつでも振り返ることができるように黒板に使い方を掲示しておく。 ○ 多様な造形的な視点を基に、表現を豊かにできるようにするために、子どもの作品を数点並べ、「どういうところがわくわくする傘になっているのかな。」と問い、作品の差異点や共通点からそれぞれのよさを見いださせる。そして、工夫するポイントとして整理する。
	新しいイメージ 色が透ける材料を使って太陽の形に切ってみよう。そして、色の組合せを考えながら、光に透かしてみえるようにしてみよう。		
思いを味わう	5 工夫するポイントを基に製作する。	5 ↓	○ 工夫するポイントを基に製作を進め、思いやイメージをより豊かにできた喜びと、友達と互いに鑑賞したよさを味わうことができるようにするために、「開くとわくわくする傘をつくれたのはなぜだろう。」と問い、製作過程を振り返りながら、表現にこだわるよさや友達との交流の価値に気付かせる。
	6 本時を振り返り、自分が工夫したことを発表する。 模様の形や色、光に写る様子を工夫してつくれたぞ。今度は、外でも差してみてみんなに見てもらいたいな。		

